

現代学生気質

保育・福祉を学ぶ生徒への授業を、テストを残して終えた。4月には、高校卒業後間近の、福祉・障害関係語彙にも始めて接するであろう生徒を相手に、私特有の問いかけと語りかけ（「常に、思考する福祉のプロになれ！」）の授業をどう進めればいいのか戸惑いもあった。授業を終えるに際し、今後の講話、講義等の組み立ての参考のために感想を書いて貰った。以下のように、生徒には、何かは伝わったようである。

「初めの頃は正直な気持ち、先生が何を伝えたかったのか理解出来ませんでした。しかし何回か授業を受けていく内に障害とはどういうものか、助け合いとはどういうことか分かってきたような気がします。」「先生に教わったことをたくさんの人々や友達に私が伝えていきたい。」「授業はとても難しかったです。意味が深くて、考えれば考えるほど、難しく思えました。」「介護とか福祉とかそういうのに関係なく、人として最も基本的で大切なことを教わった気がします。そして1番目位に難しい授業だったと思います。先生の経験談から、考えさせられることがとても多かったからです。」「何回かビデオを見たけれど、共通する部分があると思った。それは“生きる”という事である。」「“命が大切だ”ということは、以前から色々な授業で取り上げられることはありました。でも、この授業を受けることで、真剣に考えることができました。」「先生の体験談や想いを話していただく授業で、私の考えや人生を考え直す話ばかりでとてもためになりました。」「先生はすごい経験をたくさんもっている方だと尊敬していました。授業を通して、人との係わり、保育・介護を学ぶすばらしさ、そして重み。他の授業では得られない事を学びました。」

お世辞にしても、次のような感想はうれしいものである。「今日で最後の授業というのは、残念です。」「なんだかもう14コマも受けた気がしません(笑)。」「14回の授業は、あっという間でした。」「この本(僕の著書)をきちんと最後まで読みたいと思います。」「また、いつか授業していただきたいです。」

「阿部さん、好き(ルトマク)」が2名には参った！テストが心配なのか、ちゃっかりと、「あっ、テストは簡単にして下サイね。」「テストがあることを知り少し不安です。やさしくお願いします。」等の記載が、数名。再試に何回も付き合うぞよ！！

(2003年07月28日記)